

大豆、小豆、べにばないんげんのホソヘリカメムシ（新寄主）

令和6年8月から9月にかけて長沼町の大豆、小豆およびべにばないんげん、石狩地方の大豆において、ほ場全体の葉上に多数のカメムシ類成虫およびアリに酷似したカメムシ類の幼虫が確認された。当該ほ場で採取した成虫の外部形態によりホソヘリカメムシ *Riptortus pedestris* (Fabricius)と同定された。また、それぞれの作物で確認されたアリに酷似したカメムシ類の幼虫を採取し大豆および小豆で飼育した結果、ホソヘリカメムシの成虫が得られた。本種は子実を加害し、収穫後の子実に吸汁痕が生じた。大豆では、吸汁された部分が褐変する症状が確認され、被害粒率は約10%から40%であった。本種は本州においては大豆で問題になっており、防除対象となっている害虫である。北海道においては、令和4年に後志地方において菜豆で初めて作物の被害が報告がされており、近年の温暖化にともなって、北海道内において分布域を拡大している可能性がある。

（中央農試・北海道植物防疫協会）



ホソヘリカメムシ成虫（中央農試 佐々木 原図）